2027年3月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月6日

上場会社名　ウシオ電機株式会社　　上場取引所　東
コード番号　6925　URL https://www.ushio.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 朝日　崇文
問合せ先責任者　(役職名) 経理財務部長　(氏名) 伊藤　広己　TEL 03-5657-1000

半期報告書提出予定日　2026年11月13日
配当支払開始予定日　―
決算補足説明資料作成の有無　：　有
決算説明会開催の有無　：　有　(アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2026年4月1日～2026年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期中間期	103,538	27.2	9,788	143.8	9,674	92.2	5,367	―
2026年3月期中間期	81,425	△4.9	4,014	△6.0	5,032	△7.6	240	△89.6

(注) 包括利益　2027年3月期中間期　28,259百万円　(536.5%)　2026年3月期中間期　4,439百万円　(―%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期中間期	67.59	―
2026年3月期中間期	2.77	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期中間期	366,905	219,519	59.8
2026年3月期	331,078	198,338	59.9

(参考) 自己資本　2027年3月期中間期　219,506百万円　2026年3月期　198,324百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	―	―	―	70.00	70.00
2027年3月期	―	―			
2027年3月期(予想)			―	70.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	220,000	22.8	18,000	50.5	18,000	34.9	12,000	50.1	151.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 ： 無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期中間期	83,500,000 株	2026年3月期	83,500,000 株
② 期末自己株式数	2027年3月期中間期	4,151,012 株	2026年3月期	3,682,810 株
③ 期中平均株式数（中間期）	2027年3月期中間期	79,414,910 株	2026年3月期中間期	86,896,316 株

（注）株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式については、自己株式に含めて記載しております。

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料4ページをご参照ください。

（決算補足説明資料の入手方法について）
当社は、2026年11月6日（金）に証券アナリスト、機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。
この説明会で使用する資料につきましては、2026年11月6日（金）に当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間連結貸借対照表 …… 5
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 7
中間連結損益計算書 …… 7
中間連結包括利益計算書 …… 8
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 11
（セグメント情報等の注記） …… 11
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 11
（継続企業の前提に関する注記） …… 11

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における世界経済は、中東情勢によるエネルギー問題及び日中関係の不安定化などの地政学的リスク並びに為替動向など、不透明な状況が続きました。

このような環境のもと、半導体・電子デバイス・プリント基板市場及びサーバー市場においては、生成AI関連に牽引され新たな需要の高まりが見られ、関連する設備投資が増加傾向にあります。フラットパネルディスプレイ市場においては、液晶テレビの買い替え需要に伴う液晶パネルの一時的な需要回復により、液晶パネルメーカー各社の稼働は堅調に推移しました。映像関連市場においては、映画館の稼働は安定的に推移し、投資意欲も堅調に推移しました。一般映像機器市場においては、エンターテインメントの多様化が進むなか、アミューズメントパークや世界的なイベント等での高度な映像演出ニーズの高まりにより、堅調な市況が継続しました。

当中間連結会計期間の平均為替レートは、米ドルが前中間連結会計期間に比べ14円円安の160円となりました。

その結果、当中間連結会計期間における売上高は1,035億３千８百万円（前年同期比27.2%増）、営業利益は97億８千８百万円（前年同期比143.8%増）、経常利益は96億７千４百万円（前年同期比92.2%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は53億６千７百万円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益２億４千万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（Industrial Process事業）

［露光用ランプ］

生成AI半導体関連の需要に牽引され、設置済み装置の稼働等が堅調に推移したことで販売が増加しました。また、ams-OSRAM AGの光源事業買収による増収効果もあり、増収となりました。

［OA用ランプ］

ペーパーレス化の進展は継続しているものの、顧客の在庫調整一巡で販売が増加し、増収となりました。

［光学機器用ランプ］

半導体関連市場の稼働が好調であることにより半導体分野におけるサーマルプロセス関連の需要が増加したことや、液晶テレビの買い替え需要などを背景にフラットパネルディスプレイ向け需要が堅調に推移したことから販売が増加しました。また、ams-OSRAM AGの光源事業買収の増収効果もあり、増収となりました。

［光学装置（露光装置）］

生成AI向け需要の増加を背景に、主に直描式露光装置の販売が増加し、増収となりました。なお、投影露光装置を中心に各露光装置の引き合い及び受注は引き続き増加傾向にあります。

［光学装置（その他）］

EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源に関する保守メンテナンスサービス収入が、一部光源の稼働停止により減少し、減収となりました。

利益面では、光源の主要部材であるタングステン等の原材料価格高騰による影響を受けたものの、露光装置の需要回復に伴う販売可能性の見積りを反映した結果、棚卸資産の評価損は純額で戻し入れとなりました。また、半導体関連の光源の販売が好調に推移し、製品ミックスが良化したことから収益性が向上し、増益となりました。なお、タングステン価格の高騰による影響は、対策を講じることにより、今後抑制される見込みです。

以上の結果、Industrial Process事業の売上高は463億６千９百万円（前年同期比34.7%増）、セグメント利益は56億８千９百万円（前年同期比177.8%増）を計上いたしました。

（Visual Imaging事業）
［プロジェクター用ランプ］
レーザープロジェクターの浸透が継続的に進んでおり、プロジェクター用ランプの販売は減少傾向にありますが、ams-OSRAM AGの光源事業買収による増収効果に加え、円安の効果もあり、増収となりました。

［映像装置（シネマ）］
映画館における投資意欲は堅調で、プロジェクターの置き換え需要は継続しているものの、前年同期に比べ案件が減少したことにより、売上高は横ばいとなりました。

［映像装置（一般映像）］
エンターテインメント分野における映像演出ニーズが堅調に推移したことから、増収となりました。

利益面では、光源の主要部材であるタングステン等の原材料価格高騰や、ams-OSRAM AGの光源事業買収に伴う一時的なコスト増加の影響を受けたものの、構造改革の効果が発現し寄与したことで、増益となりました。なお、タングステン価格の高騰による影響は、対策を講じることにより、今後抑制される見込みです。

以上の結果、Visual Imaging事業の売上高は465億６千３百万円（前年同期比22.3％増）、セグメント利益は22億７千８百万円（前年同期比26.2％増）を計上いたしました。

（Life Science事業）
主にams-OSRAM AGの光源事業買収効果により、増収となりました。また、前期に取り組んだ新規案件の投資対象見極め効果等により販管費が減少したことで収益性が改善し、増益となりました。

以上の結果、Life Science事業の売上高は36億２千８百万円（前年同期比10.4％増）、セグメント利益は３億９千５百万円（前年同期比133.5％増）を計上いたしました。

（Photonics Solution事業）
半導体向けデバイス及びモジュールの販売が堅調に推移したことにより、増収となりました。また、増収に伴う稼働改善や構造改革等の効果により原価及び販管費が減少し、収益性が大幅に改善したことから、増益となりました。

以上の結果、Photonics Solution事業の売上高は63億８千８百万円（前年同期比28.4％増）、セグメント利益は14億４百万円（前年同期はセグメント利益８千５百万円）を計上いたしました。

（その他事業）
客先製造ラインの稼働低下に伴い点灯装置の販売が減少しましたが、主に販管費の減少により、増益となりました。

以上の結果、売上高は６億円（前年同期比10.0％減）、セグメント利益は７千１百万円（前年同期はセグメント損失４千５百万円）を計上いたしました。

（２）当中間期の財政状態の概況

（資産）

当中間連結会計期間末における総資産は、3,669億５百万円となり、前連結会計年度末に比べ358億２千７百万円増加いたしました。主な増加要因は、光学装置等の受注増加による棚卸資産の増加及び保有投資有価証券の含み益の増加に伴う投資有価証券の増加であります。

（負債）

当中間連結会計期間末における負債は、1,473億８千６百万円となり、前連結会計年度末に比べ146億４千６百万円増加いたしました。主な増加要因は、光学装置等の販売に伴う契約負債の増加及び保有投資有価証券の含み益に対する繰延税金負債の増加であります。一方、主な減少要因は外部借入の一部返済による借入金の減少であります。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産は、2,195億１千９百万円となり、前連結会計年度末に比べ211億８千１百万円増加いたしました。主な増加要因は、保有投資有価証券の含み益の増加によるその他有価証券評価差額金の増加であります。

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ12億２千５百万円減少し706億４千２百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、130億２千２百万円の収入（前年同期は83億１千８百万円の収入）となりました。

この主な内訳は、税金等調整前中間純利益87億６百万円、契約負債の増加62億８千１百万円、仕入債務の増加57億１千７百万円及び減価償却費の発生45億８千９百万円による収入と、棚卸資産の増加93億５千２百万円及び法人税等の支払21億４千５百万円による支出であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、26億８千３百万円の収入（前年同期は26億６千万円の支出）となりました。

この主な内訳は、定期預金の払戻30億５千４百万円、投資有価証券の売却及び償還25億９千３百万円及び有価証券の売却及び償還12億９千９百万円による収入と、有形固定資産の取得30億４千１百万円及び定期預金の預入15億９千８百万円による支出であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、163億５千９百万円の支出（前年同期は７億７千９百万円の収入）となりました。

この主な内訳は、長期借入れ150億円による収入と、長期借入金の返済250億円及び配当金の支払56億３百万円による支出であります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期の通期連結業績予想につきましては、当中間連結会計期間の実績及び足元の状況を鑑み、2026年５月14日に公表した通期連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日（2026年11月６日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。なお、当業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が判断した見通しであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる可能性があり得ることをご承知おきください。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	75,749	73,116
受取手形、売掛金及び契約資産	39,801	40,889
有価証券	2,231	2,790
商品及び製品	36,489	37,368
仕掛品	16,923	24,848
原材料及び貯蔵品	25,268	25,036
その他	11,716	10,959
貸倒引当金	△1,673	△1,794
流動資産合計	206,507	213,214
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	54,470	54,425
減価償却累計額	△37,378	△37,923
建物及び構築物（純額）	17,092	16,501
機械装置及び運搬具	33,866	33,921
減価償却累計額	△24,884	△25,483
機械装置及び運搬具（純額）	8,982	8,437
土地	8,552	8,486
使用権資産	7,456	7,627
減価償却累計額	△2,331	△2,794
使用権資産（純額）	5,125	4,832
建設仮勘定	2,057	1,724
その他	41,084	41,298
減価償却累計額	△29,509	△30,486
その他（純額）	11,574	10,811
有形固定資産合計	53,384	50,794
無形固定資産		
のれん	7,063	6,544
その他	4,101	3,140
無形固定資産合計	11,164	9,684
投資その他の資産		
投資有価証券	39,033	72,387
長期貸付金	15	20
繰延税金資産	2,129	1,913
退職給付に係る資産	16,299	16,348
その他	2,718	2,715
貸倒引当金	△174	△173
投資その他の資産合計	60,021	93,212
固定資産合計	124,570	153,691
資産合計	331,078	366,905

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,062	19,557
短期借入金	1,471	1,429
１年内返済予定の長期借入金	26,725	11,725
リース債務	1,707	1,655
未払法人税等	2,526	2,136
契約負債	13,215	19,406
賞与引当金	2,823	2,977
役員賞与引当金	81	32
製品保証引当金	3,703	3,346
その他	9,979	10,984
流動負債合計	76,297	73,249
固定負債		
長期借入金	39,775	44,775
リース債務	4,929	4,534
繰延税金負債	6,375	19,166
役員退職慰労引当金	74	63
役員株式給付引当金	220	250
退職給付に係る負債	3,935	4,250
資産除去債務	368	373
その他	762	721
固定負債合計	56,441	74,136
負債合計	132,739	147,386
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,556	19,556
資本剰余金	27,767	27,775
利益剰余金	94,132	93,887
自己株式	△7,728	△9,202
株主資本合計	133,728	132,017
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,993	40,761
為替換算調整勘定	41,653	40,020
退職給付に係る調整累計額	6,948	6,707
その他の包括利益累計額合計	64,595	87,489
非支配株主持分	14	13
純資産合計	198,338	219,519
負債純資産合計	331,078	366,905

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	81,425	103,538
売上原価	51,798	63,548
売上総利益	29,627	39,990
販売費及び一般管理費	25,612	30,201
営業利益	4,014	9,788
営業外収益		
受取利息	655	668
受取配当金	341	209
有価証券売却益	9	－
投資事業組合運用益	41	－
その他	341	225
営業外収益合計	1,388	1,103
営業外費用		
支払利息	147	547
投資有価証券償還損	59	－
為替差損	117	595
投資事業組合運用損	－	12
その他	46	61
営業外費用合計	371	1,217
経常利益	5,032	9,674
特別利益		
固定資産売却益	20	12
投資有価証券売却益	1,848	208
特別利益合計	1,868	220
特別損失		
固定資産除却損	130	107
固定資産売却損	2	30
減損損失	371	918
投資有価証券評価損	159	131
事業構造改善費用	4,082	－
特別損失合計	4,746	1,188
税金等調整前中間純利益	2,154	8,706
法人税、住民税及び事業税	1,544	1,489
法人税等調整額	367	1,850
法人税等合計	1,912	3,340
中間純利益	241	5,366
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に帰属する中間純損失（△）	0	△1
親会社株主に帰属する中間純利益	240	5,367

（中間連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	241	5,366
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,334	24,767
為替換算調整勘定	995	△1,633
退職給付に係る調整額	△131	△240
その他の包括利益合計	4,198	22,893
中間包括利益	4,439	28,259
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	4,438	28,260
非支配株主に係る中間包括利益	0	△1

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,154	8,706
減価償却費	3,990	4,589
減損損失	371	918
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△368	300
のれん償却額	51	565
貸倒引当金の増減額（△は減少）	124	160
事業構造改善費用	4,082	－
受取利息及び受取配当金	△997	△877
支払利息	147	547
投資有価証券評価損益（△は益）	159	131
固定資産売却損益（△は益）	△17	18
固定資産除却損	130	107
投資有価証券売却損益（△は益）	△1,848	△208
売上債権の増減額（△は増加）	5,901	△1,450
棚卸資産の増減額（△は増加）	299	△9,352
仕入債務の増減額（△は減少）	589	5,717
契約負債の増減額（△は減少）	1,513	6,281
その他	△875	△1,356
小計	15,408	14,800
利息及び配当金の受取額	1,137	818
利息の支払額	△166	△365
事業構造改善費用の支払額	△4,824	△84
法人税等の支払額	△3,236	△2,145
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,318	13,022
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,579	△1,598
定期預金の払戻による収入	2,207	3,054
短期貸付けによる支出	△3	△8
短期貸付金の回収による収入	19	14
有価証券の売却及び償還による収入	1,770	1,299
有形固定資産の取得による支出	△5,581	△3,041
有形固定資産の売却による収入	136	614
無形固定資産の取得による支出	△395	△347
投資有価証券の取得による支出	△4	△5
投資有価証券の売却及び償還による収入	2,867	2,593
事業譲受による支出	△96	－
長期貸付けによる支出	△2	△10
その他	1	120
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,660	2,683

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	16,500	15,000
長期借入金の返済による支出	－	△25,000
リース負債の返済による支出	－	△107
自己株式の取得による支出	△9,501	△648
配当金の支払額	△6,219	△5,603
財務活動によるキャッシュ・フロー	779	△16,359
現金及び現金同等物に係る換算差額	593	△572
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	7,029	△1,225
現金及び現金同等物の期首残高	59,995	71,868
現金及び現金同等物の中間期末残高	67,025	70,642

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	Industrial Process 事業	Visual Imaging 事業	Life Science 事業	Photonics Solution 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	34,433	38,071	3,285	4,975	80,765	659	81,425	－	81,425
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	6	2	0	9	7	17	△17	－
計	34,434	38,077	3,288	4,976	80,775	666	81,442	△17	81,425
セグメント利益又は損失（△）	2,048	1,805	169	85	4,108	△45	4,063	△48	4,014

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント及びその他収益を獲得する事業活動であります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△48百万円には、セグメント間取引消去０百万円及び全社費用△58百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメント及びその他収益を獲得する事業活動に属していない一般管理費であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	Industrial Process 事業	Visual Imaging 事業	Life Science 事業	Photonics Solution 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	46,369	46,559	3,627	6,388	102,944	594	103,538	－	103,538
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	4	1	－	5	6	11	△11	－
計	46,369	46,563	3,628	6,388	102,950	600	103,550	△11	103,538
セグメント利益	5,689	2,278	395	1,404	9,768	71	9,839	△51	9,788

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント及びその他収益を獲得する事業活動であります。

２．セグメント利益の調整額△51百万円には、セグメント間取引消去４百万円及び全社費用△53百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメント及びその他収益を獲得する事業活動に属していない一般管理費であります。

３．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。